

第二回 学校協議会 議事録

- 1 日 時 11月24日(木) 16:00~17:00
- 2 場 所 本校校長室
- 3 出席者 津嶋会長 真銅委員 豊田委員 明瀬委員 乾委員 村田委員
鈴木校長 高木教頭 竹中事務長 奥村首席
- 4 次 第
 - (1) 開会
 - (2) 会長あいさつ
 - (3) 学校経営計画及び学校評価の進捗状況について
 - (4) 協議・意見交換
- 5 協議・意見交換

協議の参考として、今年度行った研究授業2回（「健康・体力」、「クリーニング」）のDVDを見る。

(1) 学校経営計画及び学校評価の進捗状況について

校長：今年度これまでの教育活動をふり返ると、学校経営計画の重点目標について具体的な取組を行った結果、生徒・保護者・教職員から概ねよい評価を得ることができている。その中で、自己理解につながるアセスメントについては、素案を作るまでには至っていない。一方で、府立校となり出前授業での外部講師の活用や臨床発達心理士による相談等、外部の力を得やすくなった。仕事について考えるプロジェクトチームを発足した。

委員：学校経営計画には、「ホームページを毎月更新して情報発信する」とあるが、現状そうになっていないようだ。どのような状況なのか。情報発

信は大事で、効力も高い。誰が更新しているのか。

教頭：府に移管され、ホームページを作成・更新するうえで多様なシステムが混在し、整理できていない。担当は、校内の分掌組織で地域協働部が行っている。

委員：ここでいうデュアルシステムとは？学校で学習し、企業等の実習でも学習するという事ではないのか。

委員：デュアル、クリーニング、など言葉が（カタカナで）難しいのでは。例えば、地域から依頼を受けて清掃するなどの形で位置づけるとよいのではないか。

校長：学校創設時の大阪市教育委員会の資料では、デュアルシステムについて、「働きながら学ぶ、学びながら働く」と言われていた。職業教育の機会・場が両方にあるという意味と双方向に評価をして生徒の成長を促すという意味がある。今後、用語の整理も必要。

委員：進路指導では企業就労をめざしているのか。

校長：生徒の状況から言うと、全員が卒業時に企業就労ということではなく、就労移行施設等に進む場合もあるものと考えている。生徒の内面的な成長を図り、個々に合った進路選択ができるようにしたい。

(2) 教科書採択について

校長：本校で選定し、府の教育委員会で承認された来年度使用教科書一覧をご覧ください。

委員：教科「情報」の理論については、その教科書が理解できるか、役にたつか、個人差があると思われる。事務系に進む生徒には、ワードやエクセルなど、具体的な使用法などが書いてあるテキストも必要なのではないか。

教頭：授業で教科書以外の教材も用意して具体的な方法を指導している。

委員：国語でSSTを取り入れているが、もっと幅広く教科を超えて、職員全員が使えるようにするとよい。生徒指導にも活用できる。

委員：生徒指導の際、SSTワークシートの同じところにどの先生も戻ってくれど生徒にわかりやすい。また、卒業後も困ったときにその都度ワークシートに戻って考えることができる。

(3) 授業アンケートについて

委員：保護者アンケートの件数をもっと増やす工夫・方法を考えたい。また、生徒の自由記述が読みたい。自由記述の中に生徒理解のヒントが隠されている。

委員：生徒には持ち帰らず、校内で書かせてみては。
持ち帰ると親の意向が知らず知らずに入ってしまうかもしれない。

委員：親の自由記述には厳しい表現が見られるが、親も葛藤していることを他にぶつける場所がないからだろう。障がい受容については丁寧な接し方が必要。何でもほめるのではなく、一人ひとりのレベルを設定し、フィードバックの仕方を変える方がよい。一律の指導にならないように。

校長：今後も生徒が校外で学ぶ機会を増やし、学校を公開していく方針です。
引き続きご意見をお願いします。